

「情報通信セミナー2023 in SHIZUOKA」を開催 ＜Web3、メタバースの活用例などを紹介＞

東海総合通信局(局長 北林 大昌)は、東海情報通信懇談会(会長 岩田 彰 名古屋工業大学名誉教授)との共催により、6月28日にホテルグランヒルズ静岡において「情報通信セミナー2023 in SHIZUOKA」を開催しました。

本セミナーは、「デジタル化、変えよう『くらし』と『仕事』の仕組み」をメインテーマとして、産学官の各方面からWeb3やメタバースの社会実装に向けた活用事例や先進的取組などに関する講演とパネルディスカッションを行い、自治体、地域の企業などから62名が参加しました。

冒頭、東海情報通信懇談会静岡地区連絡会 古川幹事長から「最新の情報通信の事例を学び、地域での実践につなげてほしい」と挨拶がありました。

松崎町 齋藤講師からは、Web3技術を活用して関係人口の創出や地方創生の実現を目指した日本初の複数自治体連合DAO(分散型自律組織)(美しい村DAO)の創設事例やNFTを活用したデジタル村民証の運用について紹介するとともに、創設に当たって苦労された思いを話されました。

岐阜女子大学 横山講師と同大学のメタバースクラブの方々からは、下呂市の温泉街を仮想空間で再現した先進的な取組事例の説明があり、地域と連携して自ら調査し、空撮用ドローンも活用しながら手作りして仮想空間の温泉街を構築し検証する当クラブ学生たちの情熱に対して、驚きの声が上がりました。

(株)NTTコノキュー 津田講師からは、仮想業界の最先端事情から、XR(クロスリアリティ)やメタバースをビジネスに活用するためにどうしたらよいかという観点で、仮想空間の利用者を継続的に伸ばすためのポイントやVR/ARデバイスの技術的な課題について、具体例をあげた解説がありました。

パネルディスカッションでは、講師、東海情報通信懇談会 安田幹事長及びNICT 吉田氏がパネリストとなり、(株)クエスト 畠中氏がモデレーターを務め、地域課題の解決や講演内容の補足、産学官連携でWeb3やメタバースを活用できないかなどのディスカッションが行われました。

安田幹事長から「地域振興のためにデジタル化を推進することは重要だが『人と人のつながり』はより重要である」と発言があり、熱のこもった議論をまとめられました。

最後に、東海総合通信局 森本情報通信部長から「この貴重な機会で生まれた縁をもとに、連携して事業に取り組み、静岡地区の情報化を進めてほしい」と挨拶しました。

東海総合通信局では今後も、静岡地区の皆様にICTの最新動向をお届けするよう工夫してまいります。



松崎町
齋藤講師



(株)NTTコノキュー
津田講師



岐阜女子大学 横山講師と
同大学メタバースクラブの皆様



パネルディスカッションの様子